

紀州鉄道は御坊駅と西御坊駅を結ぶ 2.7 Km で、現在、日本で 1 番最短距離の鉄道である。以前には、西御坊駅から更に日高川駅間 0.7 Km あったが、平成元年4月に廃止され更に短くなった。

しかし、これよりもっと短い鉄道が近く誕生する予定になっていた。それは成田にある芝山鉄道で、東成田駅 - 芝山千代田駅間 2.2 Km である。

小生にとって駅で仮眠し列車を待つことは、“朝飯前”であった。大型電器店で徹夜で並んで安く買う時はこんなものではなく、それに比べたら マシ な方であった。その時には小生は決まって、愛読書である時刻表を持参して読みながら夜が明けるを待っていた。正に、“座して旦を待つ”の諺がピッタリであった。

そして、多くの鉄道常識を身に付けダイヤも暗記するのであった。

特に今回の全線踏破のダイヤに関する情報は完全に覚えるのであった。

“暗記”とは字の如く、暗闇の中で読んでこそ覚えるものだといまでも信じているのである。

しかし、今日は服は濡れており床も濡れており、読書どころか仮眠とは程遠かった。今日の床には、“床暖房”ならぬ“床ダンボール”であった。

利用客はいなく、いるのはホームレスの男性の人達が数人ほどいた。

紀伊田辺の駅前には交番があり、台風と言う異常事態もあって時折、パトロールに来てくれた。警察官は交番「こうばん」から来たにも係らず、「こんばんは」とも言わず黙って見ていたのである。見知らぬ土地でパトロールが来たので安心、安全であったが、快適ではなかった。

他人のことを言われず、見る人が見れば小生だって立派な？ ホームレス 見たいでもあった。

このホームレスから見れば、“同業者”と思っていたかも知れなかった。

この“同業者”も小生を新入生と思って見ていたかも知れなかった。

小生の寝るホームは毎日が替わり違って、インターネットのホームページも持たない小生は、正に、“ホームページレス”であった。

某テレビ番組の「いきなり黄金伝説 1ヶ月1万円生活……」どころか、列車代、宿代を含めて「1日1万円生活」の身でもある。

時間はたっぷりお金はチョッピリの旅の原点に戻った気がした。

